

子の虐待防止にならない

白井議員、条例案に反対

3日の横浜市議会第2回定例会で、日本共



訴える白井市議
3日、横浜市議会

産党の白井正子市議は、議員提案による「横浜市子供を虐待から守る条例」案について、「虐待防止に真に有効な手だてとなり得ない」として反対しました。

同条例案は、「子どもは田舎な家庭におい

て慈しみと愛情をもって育てられる存在である」と子どもを保護の対象と見て、権利の主体として尊重していません。また、「子育ての第一義的責任は家庭にある」と自己責任を求めています。

白井市議は、今回の

条例案で市と市民と保護者と関係機関が一体となって防止に努めようという考え方は理解できると表明しました。

そのうえで、条例について「子どもが安心して生きる権利、育つ権利の保障も、一人ひとりの人格の尊重も、虐待による権利侵害も明記がない」と指摘。子育て家庭が困難な社会的背景への認識もないことにもふれ、「子育て家庭に前近代的な家族観を押し付ける」ものだとしました。

条例案は、自民党、公明党、民主党、未来を結ぶ会、みんなの党などの賛成多数で可決しました。